

(10) 野ねずみ・もぐらの防除

ア 野ねずみ

殺そ剤(一般名:リン化亜鉛粒剤)を使用し、春期繁殖前の2～3月に共同で大面積を防除する。この場合、穴をもれなく探し、次のいずれかの毒餌を入れてふさぐ。

適用場所	作物名	薬剤名
農地・山林	野ソが加害する農作物等	ラテミンリン化亜鉛1%
		りん化亜鉛10

イ もぐら

もぐらは、土の中のミミズやコガネムシの幼虫などをエサとしている。土の中を掘ってこれらのエサを探してできるのがもぐらのトンネルである。もぐらのトンネルには、ほぼ毎日通る本道(生活道)とたまたまエサの匂いを感じて探しに行くときにできた支道(探餌道)がある。トンネルを潰して、復旧していれば本道と判断できるので、この場所に捕獲器を設置する。

(ア) 捕獲

もぐらの本道に捕獲器を仕掛ける。本道は、田畑なら畦畔に多く、草原ではその縁辺や樹木の多い部分、垣の下などに多い。そのような場所の火山状の土の盛り上がりを見つけてスコップで掘ってみると、斜めに下方に走っているトンネルがあり、それに沿って深く進むと、やがて水平に走るトンネル(本道)に達する。そこで捕獲器が入るだけの土を取り去り、その土をスコップで細かくつぶし、石や小枝などを取り除く。この際トンネルよりも少し深く掘り、ここに捕獲器を仕掛け、さきに細かくほぐしておいた土をかけ引金板とすれすれになるようにする。

円筒タイプの捕獲器の場合は、底が地面に少し埋まるぐらいに設置し、周囲のすき間ができないように土を入れ込み、動かないように固定し、上から土をかぶせる。1頭獲れても、また獲れることがあるので、数日同じ部分で続けてみるとよい。

本道が見つげにくい場合は、土手のように土の盛り上がった新鮮な側道に仕掛ける。この土の盛り上がりをついで踏んでおき、数時間後～翌日、つぶされた土手が再び盛り上がっていたら仕掛ける。

手の臭いが土や器具につかぬようするため手袋をはめ、素手では一切触わないようにする。

(イ) 音響によって追い払う

風車からの動力により、畑の土中に音響を伝える装置がある。そのような装置を利用するか、工夫する。